



病院合同
就職説明会
キャリタス看護
フォーラム

平成31年1月19日(土)
札幌パークホテルにて



No.
20



北海道病院だより

病院理念

地域の人々を中心とした
質の高い医療・介護を提供し、
地域から信頼される病院に
なります。

基本方針

- 1.一人一人の権利を尊重し、人間愛を基調とした医療・介護を行います。
- 2.安全を第一に説明と同意に基づく医療・介護を行います。
- 3.地域との連携を推進し、求められる医療・介護を行います。
- 4.地域の健康増進をめざし、保健予防活動を推進します。
- 5.地域医療機能の推進をもって医療・医学の発展に貢献します。



年頭のごあいさつ



院長
古家 乾

新年明けましておめでとうございます。

昨年は災害の多い年として、日本中の災害拠点病院のみならず各病院、クリニック、介護施設等がBCPについて考える契機になった年だったと感じております。平成から新しい元号の幕開けになるこの年初めに、この数年間の日本の医療・介護・保健分野の政策の方向性をもう一度整理してみたいと思います。

2015年6月に「保険医療2035」の提言書が発表されました。「2035年、日本は健康先進国へ」と謳われ、「人々が世界最高水準の健康、医療を享受でき、安心、満足、納得を得ることができる持続可能な保険医療システムを構築し、我が国の繁栄に貢献する」ことを目標に掲げています。2035年の保険医療が実現すべき展望として、保険医療の価値を高める、主体的選択を社会で支える、日本が世界の保険医療を牽引する、の3つ挙げています。

これを受け2015年11月から計8回にわたって、「保健医療分野におけるICT活用推進懇談会」が開かれ、2016年10月に「ICTを活用した次世代保険医療システムの構築に向けてデータをつくる・つなげる・ひらくー」という提言が纏められました。この提言では、「ビッグデータ活用やAIによる分析」、「ICTを活用した遠隔診療や見守り」、「地域や全国の健康・医療・介護情報のネットワーク」、「ビッグデータ活用によるイノベーション」を患者と国民にとっての価値にむすびつくようなアクションと工程表を2017年から2020年まで具体的に呈示しています。

さらに2017年1月にデータヘルス改革推進本部が設置されました。世界で初めてとなる、大規模な健康・医療・介護の分野を有機的に連結したICTインフラを2020年度から本格稼働させるべく、具体策の検討を

加速するため、厚生労働省内にこの本部を設置し、部局を横断的に幅広く検討するためとあります。この中には、データヘルス改革、医療提供体制改革（働き方改革を含む）、保険制度改革が含まれています。この本部設置の趣旨の下りを少し引用してみます。

「これまでの我が国の健康・医療・介護施策におけるICTの利活用は、さまざまな縦割り構造を背景に、その前提となるデータが分散し、相互につながらない形で取組が進められてきた結果、一体的に機能せず、必ずしも現場や産官学の力を引き出したり、患者・国民がメリットを実感できる形とはなっていなかった。例えば、個人の健康なときから疾病・介護段階までの保健医療データが連結されていない結果、個人自らがデータをもとにした有効な健康管理を行えなかったり、避難所における被災者の緊急医療対応での困難事例や、医療的ケアの必要な障害児等の救急搬送時の医療情報欠如による搬送受け入れ困難事例、などに見られるように、保健医療情報のより迅速な共有が求められてきた。」とあります。

そして、2018年7月に個人の医療情報等を結びつける医療等IDの運用が、被保険者番号を個々人に振りあてて一元化すること及び全国保険医療情報ネットワークの具体的な工程表が示されました。

まさに産学官が一体となって、日本の未来を維持する仕組みとしての必要性は痛切に感じますが、インフラ整備の財源、各種法的整備、医療・介護者や国民への周知などへの配慮がさらに必要と思われます。

皆様のご多幸を祈念して新年のご挨拶とさせていただきます。



平成31年

新年のあいさつ



副院長
広瀬 崇興
(ひろせ たかおき)

明けましておめでとうございます。平成最後の新年のご挨拶をさせていただきます。

当院は平成26年4月に「北海道社会保険病院」から通称「ジェイコー 北海道病院」に改名して5年となり、やっとその名称も広がりつつあるように感じております。当院は南区の総合病院として近隣の診療所とも連携をとって地域の皆様の健康を維持するために貢献しております。その活動の一つとして地域の皆様に対し、「地域講演会」と称して当院の地域連携相談室・付属老健・付属居宅介護支援センターが主体となり各科の先生方による話題の疾患や症状についての講演会をほぼ毎月開催しております。場所はいろいろで近隣の町内会館や区役所の関連施設です。講演内容、日時、場所のアナウンスは当院のホームページまたは正面玄関掲示板の案内用紙、近隣の町内会の回覧板などで行っておりますので、よろしくご利用ください。

今年もよろしくお願い申し上げます。



副院長・
呼吸器センター長
秋山 也寸史

明けましておめでとうございます。

昨年は北海道胆振東部地震とそれに続く大規模な停電、さらには平岸でのガス爆発と大変な1年でしたが、年末年始は天候も荒れることなく新年は穏やかにお過ごしになられたこととお慶び申し上げます。呼吸器センターとして、肺癌、肺炎、喘息、間質性肺炎、肺結核、重症呼吸不全等幅広い領域の疾患のご紹介をお断りすることなく迅速にお受けし、最新の診療を患者さんに優しく丁寧に行うことをこれまで同様に継続します。何かお気づきの点がございましたら率直なご意見をお聞かせいただけますと幸いです。

地域に根ざして質の高い医療と付属老健施設での介護を提供する様、各職種の力を合わせて職務に励んで参りますので何とぞ宜しくお願い申し上げます。



副院長・
消化器センター長・
地域ケアマネージメント
センター長
数井 啓蔵

新年あけましておめでとうございます。昨年の北海道は、9月6日に発生した北海道胆振東部地震によるブラックアウトから北海道全域が停電を経験しました。ほとんどの人が初めての経験で、被災地ばかりでなく外国人を含め道内にいる多くの人たちの生活に混乱を招きました。医療現場でも、特に在宅人工呼吸器、在宅酸素療法、人工透析を行っている患者などの対応に、どこの病院も躍起になって対応したことと思います。当院でも、補助電力があったものの電子カルテが停止したため、通常の診療は困難な状態でした。今回の経験をもとに、どこの病院も災害に対する対策を真剣に取り組むこととなりました。当院でもBCP作成に取り組み、補助電力をどこに優先的に使うべきか、被災した中で行える最大限の診療をするために何が必要か検討し、補助電力の配分を再構築いたしました。これからは、大がかりな防災訓練を含めた準備も重要な課題と考えております。

一方、当院においては、昨年4月より地域ケアマネージメントセンターを開設いたしました。これまでの地域連携室と新設した総合支援センター（GSC）を統合した組織です。GSCは、患者情報を入院前から把握し、早期から問題解決に着手することで、病床管理を含む入退院プロセスの最適化を図ることを目的とします。実際には、専従スタッフが、入院前から適宜介入しながら、患者情報を収集・一元管理し、退院困りリスクのある患者については病棟スタッフ、MSW等が共働で早期退院をサポートしています。これからも、患者さん、家族にとって満足のいく退院支援ができるように心掛けていきたいと考えております。今年もよろしくお願ひ申し上げます。



JCHO北海道病院附属
介護老人保健施設
副施設長（病院事務部長）
小野寺 正逸

明けましておめでとうございます。新年にあたり一言ご挨拶申し上げます。

年末から年始にかけて強烈な寒気が入り込むとの予想で、寒さと雪に注意していましたが、札幌の正月三が日は穏やかな日が続きました。

いわゆる2025年問題を前に、医療介護制度が激変しているのは皆様もご承知のとおりで、昨年は診療報酬と介護報酬の同時改定が行われたところです。介護報酬の改定において当院は在宅復帰在宅療養支援機能加算により、「超強化型」を取得し、その維持を図っているところです。

以前にも書いたとおり、JCHO北海道病院は健康管理センターを併設し、介護老人保健施設とともに保健・医療・介護をシームレスに提供しうる施設と考えています。

病院・健康管理センター・介護老人保健施設がそれぞれの組織の壁を取り払い、今まで以上に一体となって取り組むことは勿論ですが、地域の医療機関や介護施設、行政機関などとの連携を更に強化することにより地域の皆様に信頼される組織作りに当たりたいと考えておりますので、本年も皆様のご支援ご指導をよろしくお願ひいたします。

第50回

リバーサイド 消化器懇話会

副院長・消化器センター長 数井 啓蔵

今回は50回を記念し、昨年秋に北大循環器病態内科学教授に就任された安斎俊久教授に記念講演をお願いし、リバーサイド消化器循環器懇話会といたしました。

本懇話会は、2002年7月16日に第1回を開催し、年3回の定期開催（3月、7月、11月）を行ってきました。内容は、地域の先生方からご紹介いただいた患者さんの症例検討2～3題と当消化器センターでの経験した症例の臨床検討を講演として発表させていただきました。

第30回は、2012年3月16日で、記念講演としまして札幌パークホテルで、広島大学病院病院長 茶山一彰先生をご招待し「C型肝炎治療の新展開」をご講演いただきました。その後、第33回 北海道大学消化器内科学分野 坂本直哉教授「C型肝炎治療後の将来展望」、第35回 北海道大学消化器外科学分野I 武富紹信教授「これからの中年肝臓外科治療」、第36回 北海道大学放射線医学分野 白土博樹教授「消化器領域における陽子線治療の展望」、第42回 北海道大学腫瘍内科学分野 秋田弘俊教授「がん薬物療法の新しい動向」、第47回 北大病院臓器移植医療部長 嶋村剛先生「肝疾患治療の選択肢としての肝移植：その現状と今後」、第49回 北海道大学消化器内科学分野 坂本直哉教授「C型肝炎最新治療とpost SVR診療」など適宜、北海道大学などの外部から講師をお招きし、消化器分野で興味ある内容を特別講演として取り入れてきました。

今回、第50回は、これからの超高齢化社会を鑑みて、2017年10月国立循環器病研究センターより北大循環器病態内科学教授に就任された安斎俊久教授をお招きし、特別講演として「高齢者心不全のトータルマネージメント」をご講演いただきました。HFpEP（ハフペフ、左室収縮機能が保たれている心不全）の概念をご教授いただき、高齢者に多く心房細動との関係、心筋線維化の関与、心不全の予後は栄養状態が重要であるなど、とてもご興味深いご講演をいただきました。

一般講演では、消化器センター外科部長 正村裕紀先生に「当院における90歳以上超高齢者手術の成績」、消化器内科部長 定岡邦昌先生に「下部消化管出血に対する緊急大腸内視鏡の現状」について講演していただきました。

今回の懇話会は参加者81名、消化器に携わる先生だけでなく、循環器内科で開業されている先生方にも多数のご参加いただき、活発な御討論をいただきました。その後に行われた情報交換会も、多数の方が参加され大盛況でした。これからも興味あるテーマで、地域の先生方のお役にたてるよう本懇話会を継続していきたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いします。

パークホテルで開催されました。

第50回リバーサイド
消化器懇話会が
2018年11月20日、

学会報告 JCHO



2018年11月16日（金）、17日（土）の2日間、東京都港区高輪のTKPガーデンシティ品川とJCHO本部研修棟を会場として、**第4回JCHO地域医療総合医学会**が開催されました。

当院からは、古家院長が「地域医療の革新と地域づくり」のテーマのシンポジウムで、座長として出席致しました。また、堀看護部長は、ポスター会場の「地域医療・介護」のセッションにて、座長として出席致しました。また、当院からは7名の職員が演題発表を行いました。

また同日の当学会にて、「平成30年度 職場チーム業務改善の取組 表彰式」がありました。当院のNST（栄養サポートチーム）を中心とした職場チームによる取り組みが見事☆優秀賞☆に輝きました！

業務・経営改善と地域に目を向けた活動を目指して、平成27年から毎年下記のようなテーマとした当該チームの活動が評価されました。

- ①医薬品の栄養剤コスト「病院負担を50%削減」する!!（平成27年度～平成28年度）
- ②入院後の誤嚥性肺炎を予防する新たな体制を作る!!（平成29年度～）
- ③周辺施設、地域対象の研修会を開催する体制を作る!!（平成30年度～）
- ④平成21年度より行っているNST専門療法士取得に関わる実地修練計画の見直しを行う!（平成30年度～）

チームNST!!メンバー

瀧川 博子（主任栄養士）、正村 裕紀（外科部長）、太田 亮（耳鼻科医長）、梅田 美智子（看護師長）
森本 雅子（薬剤師）、城宝 深雪（主任言語聴覚士）、齋藤 幸（ソーシャルワーカー）

NST・関係者の皆様、
優秀賞おめでとうございます!!



睡眠衛生指導について

薬剤科 佐藤 裕美／近岡 聰司郎

「眠れない」＝「睡眠薬」ではなく、 まずは睡眠衛生の見直しを

睡眠衛生指導とは睡眠に関する正しい知識を提供し、良い眠りを確保するための生活改善を目的とした指導です。生活習慣病と同様に、不眠もまずは睡眠薬投与よりも生活習慣の改善が必要です。

当院では外来1階グリーンモールにおいて「不眠と薬」と題して、睡眠衛生に関する健康教室を行っています。その中からいくつかご紹介します。

良い眠りの理解

良い眠りとは「日中の眠気とその眠気によって生活に支障を来たさない夜の睡眠のこと」と定義されます。しかし良い眠りは?と問うと、「8時間一度も起きずに眠れること」「若い時のようにぐっすり眠れること」といった眠りへの満足感が満たされた状態が良い眠りと思われている方が多いようです。このように夜の睡眠時間や睡眠の満足感に重点を置きがちですが、日中の活動内容に注意を向けていただくことが重要です。

日中の生活に支障がない程度の睡眠時間で良いこと、年齢を重ねると睡眠時間は短く、浅くなることも併せて説明しています。

睡眠時間の調整

必要以上に長い床上時間は不眠の憎悪因子となるため、就寝時間と起床時間を見直し、床上時間を適正化することが必要となります。入眠時間の2~3時間前は1日で最も覚醒している時間帯とされています。長く眠りたいために、早くに寝床に入るとこの覚醒時間と重なるため、寝付けません。また、長い床上時間は眠りが分断され、夜中に目覚めやすくなり、結果として熟眠感が得られなくなります。就寝時間はきっちり決めず、眠くなったら寝床に入るよう促します。

就寝時間が遅れても起床時間はいつも同じ時間とし、朝は日光をしっかりと浴びることが重要です。日光は、ずれた体内時計を修正し、日光を浴びた15~16時間後にメラトニンという睡眠ホルモンが分泌されるため、入眠時間も徐々に安定します。

詳細は「健康づくりのための睡眠指針2014(厚生労働省健康局)」をご参照ください。次回は薬物治療について紹介します。

お知らせ

研修会の実施報告

「あきらめないで!お家に帰ろう!」～肺がん末期患者の事例を通して～

日 時 平成30年12月5日(水) 18時～ 場 所 当院講堂

参加人数／院外20名 院内15名

地域講演会の実施報告

日 時 平成31年1月30日(水) 場 所 中の島1区福祉会館(中の島1条1丁目4-13)

テーマ よりよい睡眠について 呼吸器内科 長井医師、佐藤薬剤師

懇話会のお知らせ

JCHO北海道病院では、地域の先生方との研修・交流の場として講演会を中心とした勉強会を開催しています。

第51回 札幌南部呼吸器懇話会

日 時 平成31年2月20日(水) 場 所 当院講堂

第51回 リバーサイド消化器懇話会

日 時 平成31年3月19日(火) 場 所 当院講堂

家族会講話のお知らせ

認知症について

日 時 平成31年3月8日(金) 場 所 当院付属老健

詳細は地域連携相談室までお問い合わせください。

災害救急指定日

〈平成31年〉2月19日(火)、3月2日(土)、3月19日(火)

※災害救急指定日は、やむを得ぬ事情により変更する場合があります。毎日の新聞紙等でご確認ください。

健康教室のご案内

当病院では、健康への正しい知識を深める機会として、毎月2週にわたり健康教室を開催しております。医師、看護師、薬剤師、管理栄養士等が分かりやすくお話しします。
どなたでも無料でご参加いただけます。



外来の待合場所が会場です

整形外科

中央
処置室

エスカレーター

会計窓口

会場はこちら

再来
受付機

正面玄関

場所 外来棟1階ホスピタルモール
(エスカレーター裏側)

時間 11:30～12:00

予約 予約はいりません。
どなたでも無料でご参加いただけます

※開催日など詳しくは、
ホームページやチラシをご覧ください。

JCHO北海道病院 各科外来診療担当医師

診療科	午前・午後	月	火	水	木	金
総合診療救急科	午前・午後	内科系 長井 桂	志田 玄貴	前田/馬場 池田 明洋	谷口 菜津子	前田 由起子 大江 真司
		外科系 数井 啓藏 庄野泰弘/酒井俊彦/ 岩崎美憲(交代診療)(午後)	正村 裕紀 岩崎 美憲(午後)	正村 裕紀 庄野泰弘/酒井俊彦/ 岩崎美憲(交代診療)(午後)	数井 啓藏 酒井 俊彦(午後)	数井 啓藏 庄野 泰弘(午後)
循環器内科	午 前	五十嵐 康己	三神 大世	木村 銀河	木谷 俊介	木村 銀河
心臓血管外科	午 後(診療1:00~)			木村 銀河		木村 銀河
呼吸器内科	午 前			吉田 俊人		
	午 前	1 診 秋山 也寸史	原田 敏之	原田 敏之	長井 桂	秋山 也寸史
	午 前	2 診 眞木 賀奈子	谷口 菜津子	谷口 菜津子	眞木 賀奈子	長井 桂
	午 後(予約)(診療1:30~)			秋山 也寸史(予約)		
消化器内科	午 前	1 診 古家 乾	小泉 忠史	古家 乾	森川 賢一	小泉 忠史
	午 前	2 診 馬場 英	定岡 邦昌	定岡 邦昌	定岡 邦昌	馬場 英
	午 後(診療2:00~)	3 診 田口 純(予約)[化学療法]	合田 智宏(予約)[化学療法]	竹内 啓(予約)[化学療法]		
腎臓内科	午 前	楠 由宏		古川 將太	楠 由宏	
膠原病内科(予約)	午 前		浄土 智(予約)		浄土 智(予約)	志田 玄貴(予約)
糖尿病・内分泌内科	午 前	1 診 牧野 圭祐	柴山 惟 國崎 哲		宮野 有希恵 國崎 哲	
	午 後(予約) (診療1:30~)	1 診 坂本 直哉(予約)		牧野 圭祐(予約)		
	2 診					
内科	午 前		大江 真司(予約)	竹内 正	大江 真司(予約)	
小児科	午 前	1 診 澤田 博行	古山 秀人/中島 泰志(交代診療)	大原 夕季	大原 夕季	澤田 博行
	午 前	2 診 椿 淳子	椿 淳子	椿 淳子	椿 淳子	椿 淳子
	一般	岡嶋 寛	岡嶋 寛		大原 夕季	中島 泰志
	午 後 (診療1:30~)	慢性外来 (予約)	澤田 博行(予約) [慢性・発達]	椿 淳子(予約) [内分泌]	松澤 まさ(予約) [喘息・アレルギー]	中島 泰志(予約) [腎臓]
				古山 秀人(予約) [心臓]	乳児健診(予約)	中島 翠(9:00~)(予約) [神経](第1・3週)
外科	午 前	一般 敦賀 陽介	数井 啓藏	数井 啓藏	正村 裕紀	正村 裕紀
	午 前	乳がん検診(予約)	乳がん検診(予約)	乳がん検診(予約)	乳がん検診(予約)	乳がん検診(予約)
	午 後 (診療2:00~)	一般 乳腺外来(予約)	出張医(予約)(第1・3週)			
整形外科	午 前	1 診 庄野 泰弘	庄野 泰弘	庄野 泰弘		交代診療(10:00~)
	午 前	2 診 酒井 俊彦(10:00~)	酒井 俊彦		酒井 俊彦	寺島 理代
	午 前	3 診 岩崎 美憲		岩崎 美憲		
	午 後 (不定期)	上肢専門外来 (2:00~4:00)			門間 太輔 (手、肘、肩)	
泌尿器科	午 前	1 診 広瀬 崇興/出張医(交代診療)	広瀬 崇興	広瀬 崇興	広瀬 崇興(10:00~)	広瀬 崇興
	午 前	2 診 佐藤 俊介	佐藤 俊介	佐藤 俊介	佐藤 俊介	佐藤 俊介
	午 後 (診療1:30~)	1 診 広瀬 崇興/出張医 (交代診療)			広瀬 崇興(予約)	
産婦人科	午 前	1 診 山田 俊	佐々木 瑞恵	小田 泰也	小山 貴弘	山田 俊
	午 前	2 診 小野寺 康全(初診)	小山 貴弘	小野寺 康全	小田 泰也	小山 貴弘(初診)
	午 前	3 診 山村 満恵	小田 泰也(初診)	山村 満恵(初診)	佐々木 瑞恵(初診)	小野寺 康全
	午 後 (診療2:00~)	助産師外来	助産師外来		助産師外来	
	午 後 (診療2:00~)	1 診 交代診療(初診)	交代診療(初診)	交代診療(初診)	交代診療(産後)	
眼科	午 前	1 診 藤尾 直樹	藤尾 直樹	藤尾 直樹	藤尾 直樹	藤尾 直樹
	午 前	2 診 高橋 智恵	高橋 智恵	高橋 智恵		高橋 智恵
	午 後(診療2:00~)				藤尾 直樹	
耳鼻咽喉科	午 前	1 診 久保田 圭一	久保田 圭一	金谷 健史[紹介・予約のみ]	久保田 圭一	久保田 圭一
	午 前	2 診 太田 亮[予約なし]	太田 亮	交代診療	太田 亮	太田 亮
	午 後 (診療2:00~)	1 診 金谷 健史[紹介・予約のみ]				久保田 圭一
	午 後 (診療2:00~)	2 診 太田 亮				太田 亮
皮膚科	午 前	1 診 遠藤 元宏	遠藤 元宏	遠藤 元宏	遠藤 元宏	遠藤 元宏
	午 前	2 診 小松 彩友香	小松 彩友香	小松 彩友香	小松 彩友香	小松 彩友香
	午 後 (診療2:00~)	1 診 遠藤 元宏	小松 彩友香			遠藤 元宏/小松 彩友香 (交代診療)
麻酔科(ペインクリニック・予約)	午 前	実藤 洋一(予約)		神田 知枝(予約)		笠井 裕子(予約)
放射線診断科	午 前	杉浦 充			杉浦 充	
禁煙外来(予約)	午 後(診療1:30~)	長井 桂(予約)			原田 敏之(予約)	
受付時間	《午前の受付時間》8:00~11:00(診療開始8:45~)			《午後の受付時間》0:30~3:30(診療開始は各診療科欄に記載)		

担当医師・診療時間について変更になる場合もございます。

予約変更直通TEL: 011-831-5489(予約変更 平日 午前9:00~午後4:00)

JCHO北海道病院

〒062-8618 札幌市豊平区中の島1条8丁目3-18
TEL 011-831-5151(病院代表)URL <http://hokkaido.jcho.go.jp><https://www.facebook.com/jchohok>

〈医療機関専用：地域連携相談室直通〉

TEL 0120-515-830 FAX 011-815-1005

↑ QRコード読み込み
病院ホームページへ